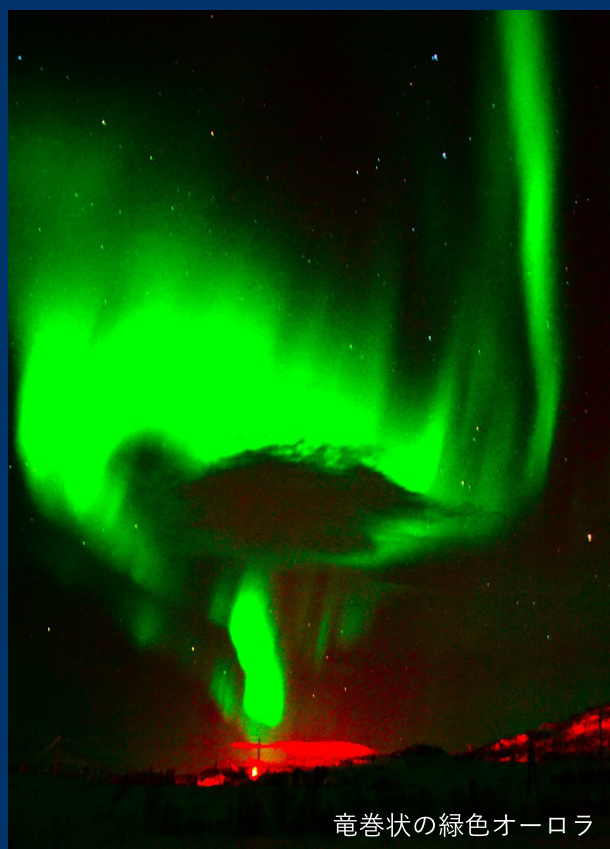


オーロラに魅せられて

(トロムソーノルウェイ)

山田恒一郎／文・写真



竜巻状の緑色オーロラ

北緯 69 度 40 分 58 秒、北極圏（ロシア領を除く）最大の都市トロムソ（ノルウェイ）郊外の雪原で、深夜にオーロラがブレイクアップ（大爆発）する瞬間に出遭った。

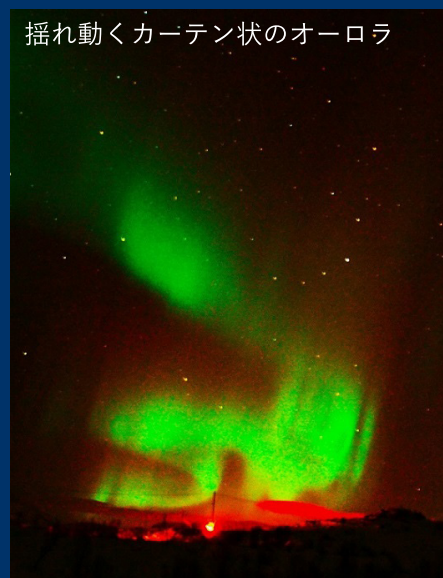
オーロラは、太陽から放出されてくる太陽風（電気を帯びた粒子を含む気体）が地球の強い磁気に引き付けられ、地球の北と南の磁極に誘導された後、東になって地球上空の電離層に高速で突っ込む際に、大気中の粒子と激しい衝突を繰り返し発光する現象。太陽風の粒子と電離層の粒子が衝突し合う場所が、上空 200 km 以上だと、地上では赤く見え、100 km くらいまで下がると緑色に見える。

オーロラは、北米、ロシア、北欧など北極圏域の各地で冬季に頻繁に観測されるが、神秘の光が突然、爆発するように広がり、暗闇の天空をオーロラで包み込むように大閃光（ブレイクアップ）する瞬間に出遭うことは、極めて稀である。

筆者がトロムソで出遭ったオーロラは、はじめ、遠くの山並みの上に薄ぼんやりと星雲のように現れた。それは、いつまでもはっきりしないまま星空を漂い続け、やがて消えてしまった。



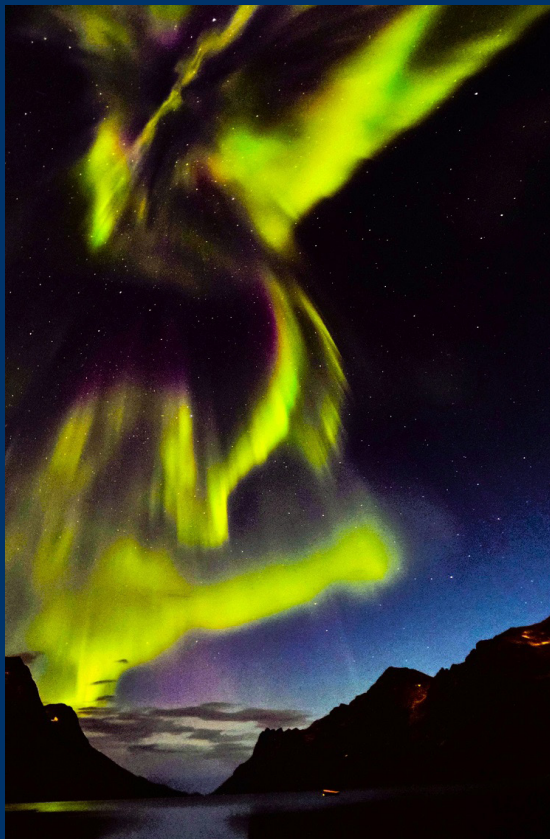
大カーテン状のオーロラ



揺れ動くカーテン状のオーロラ



裾を広げるカーテン状オーロラ



写真家サロモンセン氏が見たオーロラ爆発
(北極圏水族館所蔵)



サーミ人の使用するテント
(オーロラ観測中に暖を取り休憩する)

「これでおしまい？」

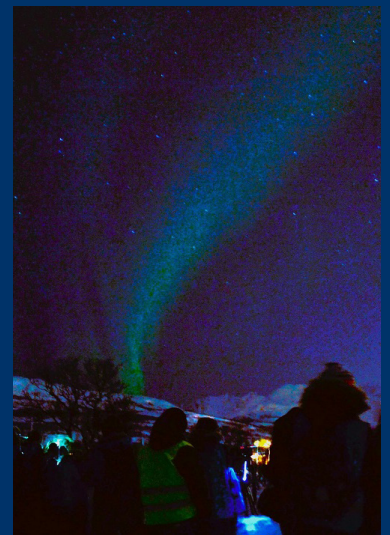
オーロラ再来に期待を込めて、待つこと半時間。突然、鮮やかな緑色の入道雲のようなオーロラが湧き起こった。

「ワッオー！」

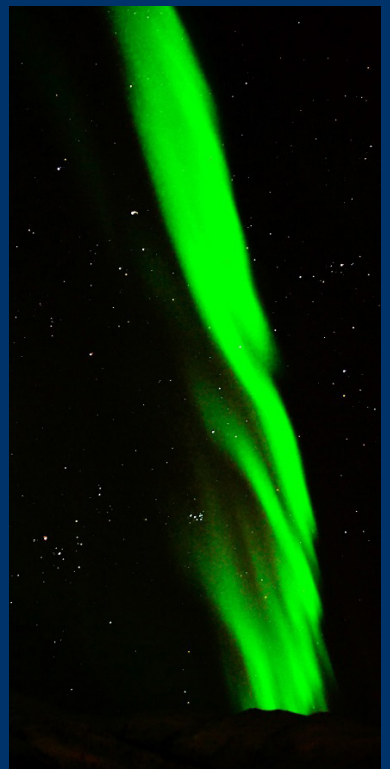
と、オーロラ・ツアーに参加した外人さんたちが歓声を上げたのも束の間、今度は東の地平線から竹竿のように棒立ちになったオーロラがニョキッと突き出た。それは、見る見るうちに頭上まで伸び、半天を緑色の巨大な帯で覆い尽くした。氷点下の大雪原にツアー客一同、時の経つのも忘れて立ちすくんでいた。

宇宙から来る光のショーは、まだ終わらない。再び、外人さんの叫び声に気付いて、西方の雪原を振り返ると、超巨大なカーテン状のオーロラが目の前に垂れ下がっていた。

裾を赤く染めた緑色のオーロラは、ゆらゆらと襞をつくりながら天空を揺れ動き、北に向かってカーテンの形状をさらに大きく広げた。ブレイクアップ（大爆発）と呼ばれる、オーロラの大閃光する瞬間に出遭ったのだ。



薄ぼんやりとして消えてしまったオーロラ



棒状のオーロラが中天まで伸びる。



積雪したトロムソ中心街



トロムソ橋で結ばれたトロムソ市の全景



極地探検家アムンゼン氏の銅像

トロムソでオーロラ・ハンティングに参加した筆者は、幸運に恵まれた1人と心躍らせると、「オーロラ・オーバル（オーロラが発生する北極圏の上空のリング状の帯域）の中心に位置するトロムソでは、オーロラ・ブレイクアップとの遭遇は、けっして珍しいことではありません」

と、現地のツアーガイドが語った。

冬季のトロムソで、夜間のオーロラ鑑賞に熱中した翌日、昼間のアクティビティは？ と問えば、一番人気はシベリアン・ハスキー犬（以下、「ハスキー犬」という）に引かせる犬ソリ。300匹のハスキー犬を持つブリーダーの飼育場を訪れた。10頭の精悍なハスキー犬が2列に縦列し、ワンワンと吠えながら出発を待つソリに大人が2人乗る。「そら行け！」

の合図に、犬たちは精一杯に雪を蹴り上げ白銀の世界に駆け出ると、時速30kmのスピードで大雪原の真っ只中を疾走する。走り終えて息を弾ませる犬たちに手を差し出すと、どの犬も体をよじらせて喜々としている。犬たちも、雪原を駆け巡る行為に大満足なのだ。



トロムソの繁華街、ストール通り



トナカイ放牧に励むサーミの人たち



民族衣装のコルトを纏ったサーミの少年



トナカイの遊牧民サーミの人たち



犬ソリに乗って雪原を駆け巡る。



寒さに強いハスキー犬が引く犬ソリ



観光客に大人気の犬ソリ体験乗車



スキーも楽しめる。

犬ソリ体験乗車を終えて、北方遊牧民のサーミ人が経営するトナカイ牧場に立ち寄った。

色彩豊かな「コルト」と呼ばれる民族衣装を纏い、広大な北極圏をトナカイと共に遊牧生活を続ける北方少数民族のサーミの人たち。サーミの男性は、大きな体躯に強い精神力を漲らせて厳寒の大地に身を晒すのであろう。ソリを引く訓練を終えたトナカイに素手を差し伸べると、トナカイがゆっくり鼻を押し付けてきた。極寒に棲む動物のぬくもりが直に手に伝わってきた。

冬季にオーロラ鑑賞、ウィンター・スポーツ、そして北欧グルメを楽しむツアー客で賑わうトロムソは、フィヨルドを形成する群島の一つトロムソイヤ島と、ノルウェイ本土（トロムスターレン）に開けた港町で、約1kmのトロムソ橋で結ばれている。古くから水産業や造船業で栄え、極地探検家のアムンゼンが活動の拠点にして以来、極地探検の寄港地として繁栄し、「北欧のバリ」と呼ばれてきた。

現在は首都オスロ、西海岸のベルゲン等に次ぐ観光都市、トロムソ大学や国際極地研究所を有する学術研究都市でもある人口約7万人のトロムソに、年間約15万人（2014年）に達する人々が観光に商用に訪れる。

（以上2015年の現地取材並びに2022年の現地情報に基づく）

スキー・ウォーキングする人たち

